



令和2年度 滋賀応援寄附 活用事業のご報告

みなさまからいただきましたご寄附は、以下の事業に活用させていただきました。

①美しい琵琶湖を守ろう

寄附金活用額 13,471 千円

○外来魚リリース禁止の輪を広げ、琵琶湖の豊かな生態系を取り戻すための取組(外来魚回収ボックスの製作等)に活用しました。

○外来生物の普及啓発を行うとともに、多様な主体による外来生物の監視と駆除活動を支援しました。



○県内の小学校5～6年生8名がびわっこ大使として琵琶湖に関することを学び、活躍しました。

○森川里湖のつながりを学べるガイドブック(電子版)を作成しました。また、ラジオ番組において、びわ湖との関わり方に関する情報発信を行いました。



○水質(リン)分析に用いる装置を整備し、湖の水質等について調査・研究を行いました。

②健康な「やま・森」をつくろう

寄附金活用額 207 千円

○都市とやまの交流促進のため、県内の農山村の魅力的な資源を、情報誌や動画、展示等を通じて紹介しました。



○研修会の開催等により、鳥獣管理の担い手となる狩猟者の育成を行いました。



今年度の活用予定は
HPでご案内しています。



③目指せ「世界農業遺産」

寄附金活用額 140 千円

○県内5地区で棚田地域を保全するボランティア活動を実施し、延べ 118 名が参加し汗を流しました。



○棚田地域に関心のある方や企業等が一堂に会し、それぞれの地域が描く目標について意見交換を行う、「棚田地域交流&研修会」を開催しました。



○世界でも琵琶湖にしかない「ニゴロブナ」等の在来魚の産卵・成育の場を守る「魚のゆりかご水田」を支援しています。県内 143ha で取り組まれています。



田んぼから流下した稚魚

○豊かな水田の生きものを守る取組を支援する活動をすすめています。

④琵琶湖博物館を応援しよう

寄附金活用額 982 千円

○6年にわたるリニューアルを終え、琵琶湖博物館は令和2年10月、おかげさまでグランドオープンを迎えることができました。今年は開館 25 周年を迎え、さらなる進化を続けてまいります。



⑤安全・快適なビワイチを！

寄附金活用額 50 千円

○上級者から初級者まで、誰もが安全・安心に「ビワイチ」を楽しめるよう、走行レベルに応じた自転車通行空間の整備を進めています。

○だれもが迷わずにサイクリングができるよう、2 か国語やピクトグラム化を施した路面表示や看板による案内施設の整備を進めています。



自転車通行空間の整備



案内標識の整備

⑥国スポ・障スポを応援しよう

寄附金活用額 134 千円

○2025年に滋賀県で開催する『わた SHIGA 輝く国スポ・障スポ』での活躍が期待される次世代アスリートの発掘・育成・強化など、競技力向上に向けた事業のために活用しました。



次世代アスリート育成プロジェクト「滋賀レイキッズ」の活動

⑦滋賀の文化財を次世代へ

寄附金活用額 298 千円

○身近な文化財を再発見する機会として、高校で「文化財を知り、考える」連続授業を実施しました。



○コロナ禍で文化財に触れる機会が減少したため、琵琶湖文化館と共同でうちでも文化財に親しめるようにぬりえを作成しました。



⑧学習船「うみのこ」を応援しよう

寄附金活用額 303 千円

○学習船「うみのこ」での児童学習航海を、県内全 5 年生を対象に 1 日航海として実施しました。

「環境に主体的にかかわる力」を育むとともに、換気や衛生管理を徹底し、安全・安心の航海を実施することができました。



多景島展望

⑨子どもをみんなで守ろう

寄附金活用額 193 千円

○児童虐待が重篤化する前に早期発見・早期対応するため、児童虐待の通告義務、通告先、子どもに及ぼす影響などを県民に広報啓発しました。



○施設等で暮らす児童の職業観を育むことにより、退所後の安定した自立生活につなげるため、企業や事業所等の協力を得て、仕事体験等を行いました。

⑩地域ににぎわいを！

寄附金活用額 94 千円

○空き家の発生予防に向け、高齢の住宅所有者に対し相談窓口の案内を行う CM 放送等を行いました。



滋賀県 空き家に関する相談 キパンキョー 検索

○滋賀県立大学で、SDGsの視点に立った持続可能な地域コミュニティを支える人材を育成しました。

○市町が抱える地域づくりの課題について、意見交換や研修会を実施し、市町の地域づくり活動の推進を図りました。



○沖島町離島振興推進協議会が、地元産品を活用した新商品開発や沖島への受入環境整備等に取り組みました。

⑪文化の力で次世代育成♪

寄附金活用額 55 千円

○県内若手芸術家への発表機会の提供とレベルアップを図るため、「びわ湖☆アートフェスティバル」を開催しました。



○国内外で活躍する若い世代の芸術家が、吹奏楽や書道パフォーマンス等を披露しました。

○サウンドハグなどの鑑賞補助器具も活用し、障害の有無にかかわらず誰もが楽しめる舞台をお届けしました。

⑫陶芸で豊かな心を育てよう

寄附金活用額 42 千円

○子どもや障がい者を対象に、陶芸の森や学校等への出張授業で「土」を使った創作体験の場を提供しました。また、陶芸の森陶芸館ギャラリーにて完成した作品の展覧会を開催しました。



⑬県立学校を応援しよう

寄附金活用額 228 千円

○寄附金を活用し、県立学校の机と椅子を購入しました。



○また、寄附金の一部(1,642千円)は積み立てて、(一例:瀬田工業高等学校)今後、各学校で考える取組事業において活用する予定です。

⑭交通安全への願い

寄附金活用額 162 千円

○交通事故により悲しい思いをする人を出さないため、防護柵の更新、路側帯のカラー舗装化、路面標示・外側線の引き直し等のハード面やルール・マナーの徹底などのソフト面の両面から「交通事故のない滋賀」の実現を目指し、交通事故防止対策に全力で取り組んでいます。



防護柵の設置



交通安全教室の様子

⑮すべての犬と猫の幸せを願って

寄附金活用額 1,477 千円

○人と動物が共生する豊かな社会の実現に向けて、地域猫活動の支援や適正飼養啓発資材の作成に活用しました。



○滋賀県動物保護管理センターの飼育環境を改善するため犬ケージの購入や猫飼育スペースのエアコン設置を行いました。

○今後、冷暖房を備えた犬の飼育スペース改修を行う予定です。

⑯ストップ「地球温暖化」

寄附金活用額 152 千円

○2050年に二酸化炭素排出量を実質ゼロ(CO₂ネットゼロ)にすることを目指し、県民・事業者および行政が一体となって取り組むため、機運の醸成を図るシンポジウムを開催しました。

○地球温暖化問題に対する正しい知識の習得や省エネ行動の実践に繋げるため、出前講座の実施や人材育成セミナー等を開催しました。



○地球温暖化対策の普及啓発を図るため、省エネや節電に関する啓発チラシを作成しました。

その他の使い道

○新型コロナウイルス感染症対策 「滋賀県がんばる医療応援寄附」

寄附金活用額 210,122 千円

○患者の方々の治療に従事される医師や看護師の方が、ご家族等への感染を防ぐため、宿泊施設等を利用される経費等を支援しました。

○患者の方々に利用いただくため、医療機関や宿泊療養施設への移送用車両やパルスオキシメーター(血中酸素飽和度を測定)等を購入し、活用しました。

○結婚・出産・子育て

寄附金活用額 87 千円

○市町が行う第3子以降の保育料および副食費を無償化する経費を補助することで、多子世帯の経済的負担の軽減を図り、希望する数の子どもを安心して生み育てられる環境づくりを推進しました。